



# 共済福祉会だより

社会福祉法人 共済福祉会 発行責任者 石津 博士  
 住所 静岡県田方郡函南町平井717-2 TEL 055(978)4100  
 ホームページ <http://kyosai Fukushukai.jp/>  
 e-mail: info@kyosai Fukushukai.jp



桜に囲まれた自寿園

## 第二八回評議委員会・第一一六回理事会を開催 平成二二年度事業計画案等が承認される

### 一、平成二二年度第二次補正 予算について

高齢者福祉部は利用者獲得およびベッド稼働率の維持に努力したが、目標を下回る介護保険収入であった。

障害者福祉部は、ベッド稼働率の維持や利用率の向上に努め支援費が増収となった。



### 二、平成二二年度の資金収支 予算(二二年度と比較)

高齢者福祉部は、ベッド稼働率、利用率目標をアップさせて、経常活動収入を増収とした。支出面では、新規採用・育児休職からの復帰等があった支出増となった。

障害者福祉部の経常活動収入は、二二年度とほぼ同額。支出面では、職員採用・育児休職からの復帰等で支出増とな

った。

福祉会全体の経常活動収支は、収入面で一六七〇万円増収。支出で四四〇〇万円の支出増。収支差額は、一七四〇万円減の一億一九〇〇万円を見込んだ。

なお、伊豆ライフケアホームの特殊浴槽の改修、および厨房内設備改修費一八〇〇万円(その内、一二〇〇万円は積立金から取り崩す)を見込んだ。

### 三、平成二二年度事業計画の 策定にあたって

第一次中期経営計画(H一八〜H二二)で目標とした、「寄附に頼らない自立した経営基盤の確立」等に合わせ、人員の配置計画、設備等積立金も所期の目標を達成した。また、取り巻く事業環境の変化が激しく、柔軟に対応し安定的な事業運営を確立するために、

第一次中期計画を一年前倒し、計画期間三年(H二二〜H二四)の第二次計画を策定した。

第二次経営計画は、取り巻く環境、年度計画の実績評価等により逐次見直しを行い、常に一歩先を見通した事業運営を基本に、積立金・適正な人員配置・人材確保育成に取り組み「安定した事業運営の推進と地域福祉の一翼を担う」を目標とした。具体的には、今後単年度事業計画で具体化し、議論する。

### 四、平成二二年度事業計画に ついて

第二次中期計画を踏まえて、基本事項を五つとした。

一つは、「安定した事業運営の推進」として、各事業のベッド稼働率および利用率を若干高めた目標とした。また、伊豆総合福祉センターの大改修に向けた具体的計画を策定する。

二つは、「地域に信頼され、支持される共済福祉会」として、函南町社協による地域福祉計画策定への参画と連携を図りつつ、当法人内での情報の共有化および地域貢献の具体策の検討を進める。

三つは、「利用者の満足を提供する」として、第三者機関による福祉サービス第三者評価を受審、その結果を踏まえた業務改善の取り組みを進め

サービス品質の向上を目指す。

四つは、「心豊かな人材を育てる」として、人材の確保・育成はより重要であり、既存の育成システムを充実強化する。

五つは、「コミュニケーションあふれる共済福祉会」として、人材の定着が組織の活力であり、あらゆる機会でのコミュニケーションの充実や職場環境の整備などにより働き甲斐の向上を図る。

## 平成22年度資金収支予算書【事業収支】

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
介護保険収入	508,780	人件費	673,379
自立支援費等収入	348,311	事務費	154,519
補助事業等収入	18,770	事業費	136,351
利用料収入	154,920	小計	964,249
措置費収入	324	収支差	70,828
経常経費補助金収入	3,972		
計	1,035,077	計	1,035,077

### 高齢者福祉部

#### 新年度を迎えて

高齢者福祉部長

宮本良美



平成二十二年四月、桜咲き誇る季節を迎え、職員一同新たな気持ちで新年度の第一歩を踏み出しました。

私たちは、社会福祉事業を通じて地域の福祉に貢献することを第一に取り組んでおります。

ところで、皆様は、社会福祉についてどの様にお考えでしょうか。

福祉サービスの利用と接点を持たない多くの地域住民からみると、地域における社会福祉法人の存在意義など、日常生活のなかでほとんど意識されないことが多いのかもしれない。

私たちの存在意義である「公

益性」や「公共性」に対して、共感が得られているか否かは、地域における日頃の地道な活動や貢献がたとえ十分に住民の皆さまに知られていなくても、社会福祉法人に求められる「公益性」や「公共性」を高める努力により評価されると思えます。

社会福祉法人の使命からみますと、地域住民の暮らしの中で存在するさまざまな福祉ニーズに対応することは、社会福祉の実践それ自体であり、本来業務と呼ぶべきものであります。

社会福祉法人の存在意義は公益性や公共性を自覚した経営の在り方などにあると思えます。大切なことは、掲げた使命を実践し、具体的な行動の適切さにあります。

職員一人ひとりが地域社会の一員として、主体的に地域について考え、積極的に地域作りにも参画していくことが取りも直さず共感を得られる大きな要素になってくると思えます。

今年度も、職員一丸となつて地域福祉への貢献と利用者ニーズに基づいた質の高いサービスを推進していきます。

#### 決意新たに…

伊豆白寿園

ケアワーカー 石井 輝

先日、施設間交流研修に参加して、私たちの伊豆白寿園の取り組みについて見つめ直す良い機会となりました。

研修を振り返ると、改善していきたいことについては検討していきたいと思いましたが、あらためて、伊豆白寿園の良さに気付くことが出来ました。

日々、利用者と過ごす時間を少しでも多く取ることにより、施設内に笑顔が溢れる。利用者の要望に沿った対応を



重視した日常のやり取りが伊豆白寿園の良い点なのだと感じることができました。

そんな伊豆白寿園も、四月からは新人職員が入り新しい雰囲気です。新人職員には、伊豆白寿園の伝統ある良さを引き継ぐとともに、職場がさらに良い雰囲気となるよう自らも新人と同じ目線に立ち、何事にも積極的に取り組んでいきたいと決意を新たにしました。

#### 小さな幸せ探し

ほほえみ訪問介護センター

ヘルパー 山田 静香

訪問介護は、介護を必要とする方の自宅にお伺いし、日常生活の一部をお手伝いさせて頂く業務です。

訪問した時に、挨拶して体調等の様子を伺います。先日、一人暮らしのAさんからこんなことを言われました。「お体の調子はいかがですか?と、ヘルパーさんは聞いてくれるが、本当は体も心も調子悪いけど、大丈夫と社交辞令で言っているだけだよ。」と不機嫌そうな表情でした。とっさに「ごめんなさい」と謝りましたが、

本音を言っただけだったので嬉しく思いました。

本日のサービス内容は、調理です。一緒に冷蔵庫の食材を見ながらメニューを決めました。調理しながら会話が弾みます。味見をして頂き「美味しい!」先ほどの不機嫌な表情から一変し微笑みを浮かべたAさん。小さな幸せを感じる時です。

Aさんに限らず、多くの方が病気に付随した不安や悩み、寂しさを抱え日常生活を送っています。私達は、ヘルパーとしてほんの少しの時間ではありますがありますが、幸せを感じられるようなサービスを提供していきたいと思えます。



### 障害者福祉部

#### 新たなスタート

障害者福祉部長

矢野 秀男



構内の桜も満開となり新たな年度が始まりました。地球温暖化の影響なのか、桜が咲き春の訪れから一転し雪が降るなど、自然界には計り知れないものがあるのだなあと感じています。

障害者自立支援法は平成一八年に施行されてから、いろいろな問題が指摘されています。安定した制度になっていないことから、短期間に数々の見直しが行われ戸惑いを抱っていることも事実です。昨年政権交代という大きな転換期を迎えました。九月の連立政権合意においては「障害者自立支援法」は廃止、制度

の谷間がなく利用者の応能負担を基本とする総合的な制度をつくることとされています。

現在、内閣府において「障がい者制度改革推進本部」が設置され本年一月には第一回の会議が開催されています。今後の動向に着目し制度に沿った事業運営が求められます。

新年度における障害者福祉部では、人事異動により一新した職員体制となりました。

今年度における事業計画の重点は、①適確な収支活動②地域に信頼され支持される共済福祉会③利用者の満足を提供する総合支援④心・知識・技術を持った人を育てる⑤職員の活発なコミュニケーションと提案等であります。

重点施策として伊豆リハビリテーションセンター・伊豆ライフケアホームの二施設では「第三者評価」を受審し更なるサービスの向上に努め、利用される方々への自立を支える役割を自覚し、利用者へのより良い支援に取り組んでまいります。

また、伊豆リハビリテーションセンターは新体系に向け円滑な移行ができるよう準備をすすめてまいります。

### 勝つぞー室内レク大会

伊豆ライフケアホーム

ケアワーカー 邑井 秀彰

三月一八日、恒例の室内レクリエーション大会が開催されました。

赤白二チームに分かれ、職員の掛け声で「勝つぞー！」と気合を入れた後、チーム対抗でゲームを楽しみました。

まずは、「ロープウェイ」です。各チームで円を作り、みんなで持ったロープの先頭から筒を通してスピードを競います。両チーム互角の勝負でとても盛り上がりました。



次は、衝立に隠れた職員が上に投げた物が何かを当てる「何だぞう？」です。投げた物が分かる利用者からは、「分かったー！」という声が掛か

り、両チーム共に全問正解でした。

職員種目の借り物競走では、利用者から熱い声援が送られていました。



最終得点は、引き分けでしたが、勝負の決着をつけたいとの声から、利用者代表二名がじゃんけんをしました。結果、「パー」をだした赤チームの勝利となりました。

これからも、利用者の生き生きとした表情が見られるよう楽しい行事を利用者と一緒に行なっていきます。

### ノロウイルス対策

伊豆ライフケアホーム

栄養士 久保寺 淑恵

秋から春にかけて猛威をふるう感染症にノロウイルスがあります。

ノロウイルス感染者が床な



どに嘔吐した場合、広範囲にウイルスが飛散するといわれていますが実際にどれくらいまで飛散するのかを、新聞紙を張り合わせて作り、その範囲の広さを確かめました。その結果、狭い場所では、床面だけでなく、壁面など、四m四方、高さ一・六mに嘔吐物の汚染がおよぶ事がわかりました。

また、「汚物処理キット」を使って、嘔吐物の処理を行い、職員全員で使用方法等の確認を行いました。

当施設では日頃から予防対策を強化し、実際に嘔吐症状が出たとしても、臆することなく対応できるようにしております。

感染症の発生を未然に防ぎ、また拡大を阻止するため、今後も衛生管理には特に力を入れていきたいと思っております。

### 平成二二年度 入社式と事業開始式

四月一日、入社式において石津理事長より幹部職員立会いの下、新規採用職員七名に辞令が交付されました。

それぞれ希望を胸に緊張した面持ちで辞令を受け取りました。



引き続き、事業開始式に臨み、石津理事長より平成二二年度の事業方針が示されました。

これを受け職員代表の決意表明、新入職員の紹介が行われました。



### 決意表明

世界情勢は著しく変わり、日本は政権交代という時代を迎えました。

私たちは、経営方針の大きな柱である「利用者」に心えていく豊かなメニュー・質の高いサービスの提供と地域貢献のための積極的な取り組みが重要課題であり、地域に認められる共済福祉会職員となるよう

一、お客様に良い印象を持つていただけるようビジネスマナーを磨きます。

二、上司に対し、ホールンソー(報告・連絡・相談)を確実にを行います。

三、様々な問題に関して迅速且つ冷静に対応します。

これらの決意を胸に、利用者主体ということを忘れず、日々それぞれの目標に向かって、自分自身を磨くとともに職員同士協力し合いサービスの向上に努めます。

平成二二年四月一日

障害者福祉部

ケアワーカー 杉山 博則

### 陶芸教室

ボランティア

池辺 みち子

親友のお誘いで老人デイで陶芸を始めました。もう三、四年になるでしょうか。

初めは試行錯誤の状態でしたが、最近は何とかペースをつかめて、楽しくやらせていただいております。



作品を手にして家族に褒められた話、孫の話、皆さんのうれしそうなお顔、私たちも同年齢ですので一緒になって話し合えます。

今迄の人生に対する恩返しのため、皆で語り合いながら喜んで

もらえる楽しい陶芸教室になればと願っております。



### 社会福祉法人における「苦情解決」の取り組み 「福祉サービスに対する利用者の満足度を高めるために」

当法人では、質の高い福祉サービスを提供していく上で、社会福祉施設や在宅で生活する利用者等からの苦情やご要望を随時受け付けております。

ご意見箱の設置や電話・電子メール等による受付の他、事業所ごとに苦情受付担当者を明示しています。申し出ていただいた内容は、苦情解決責任者と共に、迅速に対応させていただきます。

詳しい連絡先につきましては、福祉サービスを提供する各事業所の重要事項説明書やパンフレット、「共済福祉会だより」等に記載してありますのでご参照願います。

また、苦情解決に透明性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した対応を推進することを目的に、学識経験者、他法人役職員、地域代表者等からなる第三者委員を設置しています。

第三者委員の方には、苦情を受け付けた時だけでなく、定期的に福祉サービス苦情解決「第三者委員」会議に出席をしていただいで、福祉サー

ビス提供の日々のあり方や利用者が安全・安心した生活が送られるように助言をいただいています。

### 第三者委員の方々

◇榎本 政夫 様  
(函南町民生児童委員)

◇露木 香代子 様  
(社会福祉施設長)

◇幸野 宗昭 様  
(函南町社会福祉協議会 事務局長)

### 「苦情」受付窓口



- ◆伊豆白寿園 055-978-7511(田中)
- ◆かなみみ老人デイサービス 055-978-0555(佐久間)
- ◆ほほえみ訪問介護センター 055-978-4126(島田)
- ◆ほほえみ在宅介護支援事業所 055-978-0588(大沼)
- ◆伊豆リハビリテーションセンター 055-978-5111(長谷川)
- ◆伊豆ライフケアホーム 055-978-0811(増田)
- ◆伊豆ふれあいデイサービスセンター 055-978-1888(渋川)
- ◆相談支援事業所リベルテ 055-978-4187(竹村)